

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671000010		
法人名	社会福祉法人 勝寿会		
事業所名	あゆの里		
所在地	徳島県勝浦町大字棚野字竹国13番地の1		
自己評価作成日	平成22年6月14日	評価結果市町村受理日	平成21年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671000010&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との関わりを大切に考えて行事を企画している。家族の来訪時には希望に応じて記念撮影をして利用者の居室に飾っている。地域社会との交流も大切に考えて馴染みの場所への外出を支援している。また、地元の子ども会との交流や近隣の神社の草抜きなどを行って楽しみや生きがいを持って生活している。入浴は併設事業所の温泉水を使用して利用者から喜ばれている。食事は旬のものや地元の食材を多く使用している。下ごしらえや調理等できることを職員とともにに行い、一緒に食事をしている。季節の花見や催し物に出かけられるよう支援して季節感を味わってもらっている。地域社会で、穏やかに生き生きと過ごせるようケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、建物二階に位置している。ベランダからは地元の景色が一望できる。利用者は、家庭的な雰囲気のなか、犬の散歩や洗濯物たたみを職員とともにやっており、生き生きとした生活が送れている。また、地域との交流や家族との関わりを重視し、様々な行事への参加も積極的に行っている。地元ボランティアの受け入れや温泉施設の開放なども行っており、地元住民との交流を大切にしている。併設事業所の利用者との顔合わせは楽しみの一つとなっている。家族とはメールでやりとりをすることもあり、利用者がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を、職員間で確認し合っている。地域との関わりを大切にしながら生活できるようケアに取り組んでいる。	“その人らしく地域社会で心身共に穏やかで幸せに過ごせるよう支援します”を理念に掲げ、地域のボランティアや家族の協力を得ながら日ごろの支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の夏祭りや文化祭に地域の方を招いたりボランティアを受け入れている。また、地域の祭りや文化祭に行ったり神社の草抜きを行なっている。併設事業所とともに清掃ボランティアに参加している。	七夕会には、地域の子ども会からの参加がある。また、温泉を地域住民に開放しており、地元との交流を深めている。子どもから大人まで、幅広い年齢層の地域住民との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サービス担当者会議に参加して地域の高齢者の状況を把握している。また、話し合いを行って情報収集に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催している。事業所の状況について話し合い、報告を行っている。参加者から意見を出していただきサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議を2か月に1回開催している。地域住民の代表者や家族代表、町職員、地域包括支援センター職員、事業所関係者で構成し取り組みや現状の内容等について報告を行っている。参加者からは率直な意見が出されるなど、地域の理解と支援を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者や地域包括支援センター職員と連携を図っている。	3か月に1回「あゆの里だより」を発行し、事業所の取り組み状況などを報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解しており、身体拘束は全くない。	身体拘束の弊害等について、全職員が十分に理解しており、独自のマニュアルも作成している。身体拘束を必要としないケアに取り組んでおり、家族にも理解してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待について正しく理解しており、虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるたび、職員への説明は行っているが、これまでに制度利用の必要な方はいないため支援はない。しかし、併設事業所があり、助言を得て支援できる体制はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に事業所見学を勧めている。事前の説明や契約時には、担当ケアマネジャーに立ち会ってもらって十分な説明を行っている。また、入居後の対応について家族の希望を聞き、確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから利用者の意見や要望を聞いている。家族の来訪時に意見や要望を聞いて管理者と職員が検討している。運営推進会議や併設事業所との家族会などに参加していただき意見や要望を表せる機会を設けている。	家族の来訪時に、意見や要望を直接言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。意見箱の設置も行っている。意見や要望のあった際には、管理者と職員が検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を日ごろから聞いている。必要に応じて会議を開催し、検討して運営に反映させている。	管理者は、日ごろからコミュニケーションを大切にしている。また、会議やミーティングにおいて、職員から出された意見や提案について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境や条件の整備に努めている。また、全職員の人事考課を行い、意見収集や検討をして職員処遇に反映させている。リフレッシュ休暇も取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員は新人研修や事業所内研修に参加し、感染症予防やリスクマネジメント等について定期的に学んでいる。現場では必要な知識を得たり、実技研修をそのつど行っている。事業所外研修には、職員の段階に応じて参加している。また、職員の希望する研修が受けられるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学や研修、講演などに参加して同業者と交流する機会をつくっている。ネットワークづくりに努め、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望を聞きながら家族や地域包括支援センター職員と連携し、本人との信頼関係を構築している。また、家族や居宅介護支援センター職員からも本人の情報を把握している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅介護支援センターを交え、家族の情報や要望の把握に努めている。利用開始時には家族と連絡を密にして了承を得ながら対応し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅介護支援センターを交えて、必要な支援を見極めている。在宅サービスも併設している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭生活のように食事準備や洗濯物たたみなど、利用者それぞれができることをしてもらっている。また、日常生活において知恵を出し合うなどして支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者全員の家族に行事の案内をしており、多数の方が参加していただいている。その際、会話のなかで利用者に対する思いや要望等の把握に努め、ともに支え合う関係を築いている。また、利用者の状態もこまめに連絡し、対応方法等を確認し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅やその周辺、地域の行事や思い出の場所への外出を支援し、これまでの馴染みの関係が途切れないようにしている。また、事業所の行事や通院時などになじみの方と会う機会もあり、世間話ができるよう配慮している。	自宅やその周辺に出向き、馴染みの関係が途切れないように支援している。通院時に、馴染みの知人などに出会った時には、世間話ができるように配慮している。併設事業所に入居している友人との交流の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが居心地良い環境をつくっている。利用者相互の支え合いや関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、定期的にお見舞いに行っている。併設サービス利用の方や家族と会ったときには話をし、状態確認に努めている。また、居宅介護支援センターや各サービス担当者と連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちを大切にしながら、希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な場合には、本人本位に検討するとともに家族や職員間で話し合っ対応している。	利用者の生活歴や日ごろの会話の中から利用者一人ひとりに応じた暮らし方や思い、意向を把握するように努めている。意向などの把握が困難な場合には、本人の視点に立って家族と職員で話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援センターや在宅サービスとの連携、利用者の状況把握に努めている。また、利用者の暮らしぶりや家族の情報から一人ひとりの生活歴等を継続的に把握するよう努めている。職員間で情報の共有ができるように、個人ファイルや引き継ぎノートを作成して活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活や注意事項、有する力やADLの変化等をその日の記録に残している。引き継ぎをして、経過の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を取り入れた介護計画を作成し、統一した支援ができるように努めている。また、担当職員やそれ以外の職員の気づきやアイデアを大切に、そのつど話し合っている。必要時には、併設事業所の理学療法士や栄養士、看護師等にも相談している。	利用者や家族から意向や要望を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。目標の達成状況を記録し、家族の来訪時に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践と結果、気づきや工夫は個別記録に記入している。情報の共有や実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携して柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日ごろから地域資源などの把握に努めている。町や地域で行なわれる催し物に参加したり、買い物やドライブ等への支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族からかかりつけ医の希望を確認している。月1回の定期受診の他、必要に応じて受診を支援している。家族とかかりつけ医、事業所間で関係を密に結んでいる。2週間ごとに心療内科医の訪問診療があり、症状に合わせた薬を処方してもらっている。状態変化時には適切な指示をもらっている。	かかりつけ医による継続的な医療が受けられるように支援している。また、月1回の定期受診の他、2週間ごとに心療内科医の訪問診療がある。歯科の受診は、家族や職員による支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは、併設事業所の看護師やかかりつけの看護師に相談している。必要に応じて受診を支援している。また、心療内科には電話で報告し、適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者と情報交換を行っている。退院時のカンファレンスにも参加している。入院中も情報把握に努めるなど、病院関係者との関係づくりを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設事業所がターミナルケアを行っているため、併設事業所やかかりつけ医に協力してもらい対応できる体制は整っている。現在まで終末期の利用者はいない。	重度化した場合や終末期の対応に向けた体制が整っている。併設事業所の活用を視野に入れ、家族と相談しながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法のマニュアルを作成し、事故発生時に備えて初期対応等の訓練を定期的に行っている。また24時間待機体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と避難訓練を行なうとともに、緊急連絡網を作成している。地域消防区や自主防災組織とも協力体制ができている。	年2回、併設事業所と合同で避難訓練を行っている。地域の自主防災組織の協力体制が得られている。災害時に備えて備蓄品を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや対応に配慮している。	職員は、常に利用者の人格の尊重とプライバシーを損ねない援助に配慮した言葉かけや対応を行っている。名前は名字で呼ぶように徹底している。トイレ誘導は、さりげない言葉かけを行うなど本人の気持ちを大切に考えた支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の希望を聞き、自己決定できるよう支援している。また、意思表示が困難な利用者には、表情などから意思を読み取ってその人らしく穏やかに過ごせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望を大切に、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設当初からボランティアによる散髪や化粧、マニキュアなどを楽しんでいる。衣類もその方の希望にそい、その人らしく暮らせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し、食材の下準備や献立作りも一緒にしている。また、行事の際の手料理も楽しみにしている。	日ごろから、米とぎや野菜の調理などを行ってもらっている。食べたい物を聞いて献立作りを行い、一緒に買い物に出かけている。行事のときには、家族とともに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を確認し、不足時には代替食を勧めている。水分補給も好みに合わせ提供し、水分量の確保に努めている。また、必要に応じて1週間から1か月に一回体重測定を行い、変化時は併設事業所の看護師や栄養士に相談したり、かかりつけ医に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力に応じて、歯磨きや義歯洗浄を行っている。洗浄剤の使用などにより口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターン等に合わせ、声かけを行い、トイレでの排泄を基本に自立に向けた支援をしている。	全職員が、利用者の排泄パターンを把握している。利用者の状況は、申し送りなどでも十分に引き継ぎされており、トイレでの排泄に向けて全職員が支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をして、食物繊維の多い食材を使用した献立を心がけている。必要な方には、服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯に関係なく利用者の希望や体調に合わせて、日中から夕食後の夜間にかけて柔軟に支援している。	開設した温泉への入浴は、利用者も楽しみにしており、肌つやもよくなったように感じられる。夜間の入浴にも対応している。体調に合わせて足湯とシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高めるとともに必要な方には心療内科の医師に相談し対応している。また、一人ひとりの希望や体調等に合わせ昼寝等も支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成して、用法や用量の理解に努めている。また、準備時のダブルチェックや服薬介助のマニュアルを作成し、誤薬の防止に努めている。症状の変化についても確認し、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、洗濯物たたみや食事の下準備等の役割を担ってもらっている。縫い物や編み物等の趣味や毎朝の読経の他、希望に応じて外出やドライブ等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域や町内外等の季節の花見や買い物、ドライブ等、日常的に外出を支援している。また、希望に応じて利用者の馴染みの場所や自宅への外出を支援している。	バラやチューリップ園など季節の花見への外出支援を行っている。生活にメリハリをもたせ、生き生きと過ごせるように工夫している。利用者本人の思いにそって、地域への外出や馴染みの場所や懐かしい場所へのドライブも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者がお金を持つことの大切さを理解して、希望に応じて買い物時の支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけられるように支援している。お正月には年賀状を作成し、必要な方には代筆をしている。その他、希望時にはハガキ等の購入や代筆を行って、家族とのやり取りができるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節の花や外出時等の利用者の写真、利用者の作品を飾り、居心地よい空間づくりに努めている。	共用空間には、天窓が4か所あり、明るく天気を感じることができる。ゆったり座れるソファを設置しており、テレビを観たり洗濯物たたみを行うなど、利用者一人ひとりにとって居心地良い場所になっている。食後には、利用者と職員で風船バレーを行うなど身体を動かして楽しく暮らせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファを設置し、利用者一人ひとりが好きな場所で職員や気の合う利用者で過ごしたり、一人でのんびりと新聞を読んだりして自分のペースで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた品を持ってきていただいている。利用者や家族と相談し、家具の設置等を検討している。入居後も使い勝手や希望を随時検討し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベットと畳の部屋があり、居心地良く安心して過ごせる環境づくりができています。居室には家族の写真や記念写真を飾って、家族との絆を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や必要な方には居室の表示、目印をつけている。フロアはバリアフリーになっている。		